

御 挨拶

2015年1月21日

一般社団法人くらしのResearchセンター

会 長 福 嶋 等

1、いまから約100年ほど前の1911年（明治44年）に石川啄木はつぎの「テロリストの悲しき心」という詩を残しています。

「われは知る、テロリストの悲しき心を—奪われたる言葉のかわりにわれとわが体を敵に投げつける心を、そは、真面目にして熱心なる人の常にもつ悲しみなり。はてしなき議論の後の冷めたるココアをすすりてそのうす苦き舌ざわりに、われは知る、テロリストの悲しき、悲しき心を。」

啄木はテロリストの、言論に訴えるのではなく自らを肉弾として自爆するそのつきつめた心情を理解しながらも、それとは距離をおいています。では何をなすべきか。啄木の意見はつぎのとおりです。

「見よわれらの眼の輝けるを、またその議論の激しきを。

されど誰一人握りしめたる拳に卓をたたきて、

V NAROD!（民衆の中へ）と叫び出づるものなし」

啄木の詩には当時のロシアの状況が映し出されていると考えられます。ロシアでは、メンシェヴィキ、ボルシェヴィキなど革命の担い手が形成されてきていて、テロは下火になってきていました。民衆とともにという希望のあるところにテロの出番はなく、やがてロシア革命の遂行となります。

2、今日の日本では若者が夢の持てない苛酷な状態に置かれていることが指摘されています。日本は厚い中間層を築いてきた、模範的社会であった筈なのが、とくに1990年以降、社会構造が変更され、弱者に冷たい社会が出現したといわれます。最近のハーバード大学の政治学者の研究によると、「日本が世界で一番冷たい格差社会である」とさえ指摘されるに至っているそうです。アメリカより格差がひどいとは、にわかには信じ難い気もしますが、例えば教育に対する公的支出はOECD諸国の中でGDP比最低水準です（本田由紀「もじれる社会」）。

最大の問題は非正規社員が一段と拡大されていることです。非正規社員は職業が安定せず、収入も乏しく結婚もできず、その日暮らしで将来に何の展望ももてない状態におかれます。

それを裏づけるように、近年、絶望という言葉で若者を語るコミックなどの刊行物が増えているといわれます。若者の絶望はテロの温床です。

3、世界は格差拡大に向け前進中です。今春の統計によると人口1%の富裕層が富の48%（そのうちアメリカ人が80%）を占め、来年は50%以上と予想されています。

新自由主義の権力は巨大となり、一方に「金だけ、自分だけ、今だけ」の富裕層、他方に八方塞がりの貧困層、世界の二極化が進行中です。

社会の紐帯は急速に失われつつあります。テロを未然に防止するための方策は急がされているのです。